

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成 30 年度 「絵の中に入って遊ぼう」
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 ■その他(あつまり・表現)
	単元・題材名	「絵の中に入って遊ぼう」
	授業の目標	・各幼児が学校で学習したこと(歌遊びや手遊びなど)を家庭でも楽しみながら行うことができる。 ・家族と共にDVDを視聴しながら活動を行ってみることで親子でのやりとりを広げることができる。
	学力の3要素	<input type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実際	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 ■特別支援学校 ■就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない 幼稚園に在籍する6名(5歳児:1名、4歳児:2名、3歳児:3名)
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 ■知的障害 ■肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 ■自閉症 ■情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	■見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと ■動くこと ■コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 J(3歳児、男児)入学当初はプラレール等の玩具を一人で使って遊ぶことが多かったが、教員や友だちへの関心が高まり、動作やことばでの働きかけが増えてきている。絵を描くのが好きで、さまざまな色のクレヨンや絵の具を用いて、カラフルな絵を描く。(写真1)
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(■A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(■B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 ■C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援)  写真1 特別支援学校 幼稚園教育要領(平成29年4月 告示)の表現領域では、(2)「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。」という想像に関する内容と、(7)「かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。」という表現活動に関する内容が含まれている。幼稚園の設定保育「表現」の授業において、プロジェクションマッピングを活用した絵画鑑賞あそびと、鑑賞あそびを経験後の造形あそびを通して、幼児の想像と表現活動の関連性、また支援の可能性を検討することを目的とする。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	<input type="checkbox"/> 本校体育館に「ミライの体育館」として設置されたプロジェクター(写真2) <input type="checkbox"/> デジタルビデオ(SONY HDR-CX560V)  写真2-3 プロジェクションマッピングを活用した絵画鑑賞あそび
授業展開	授業展開・支援の手立て	①プロジェクションマッピングを活用した絵画鑑賞あそび(写真3) 設定保育「表現」の時間に、本校体育館に「ミライの体育館」として設置されたプロジェクターを用いて、床面に絵画を投影し、その中で子どもたちの自由な言動に教員が合わせて遊んだり、ピアノの曲に合わせて踊ったりした。投影をした絵画は、V.ゴッホの「Mountainous Landscape Behind Saint-Remy(写真4)」および「星月夜(写真5)」であった。 ②教室全体を使っの造形あそび(写真6) 絵画鑑賞あそびの後、教室に移動し、教室全体を使っの描画あそびを行った。絵の具と絵筆の他、ローラー、タンポ、綿、滑り止めマット、ボール、セロファン、テープ等を用意した。  写真4 投影したゴッホの絵画1 (Mountainous Landscape Behind Saint-Remy)  写真5 投影したゴッホの絵画2 (星月夜)  写真6 教室全体を使っの造形あそび
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	プロジェクションマッピングにより「絵画に入って」遊ぶ経験(鑑賞あそび)で印象に残ったこと(色、身体の動き、形など)が、その後の造形あそびにも部分的につながっている様子がうかがえた。